

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	(第9章)関東・飯場調査
Author	水野 阿修羅
Citation	URP「先端的都市研究」シリーズ. 17巻, p.147-158.
Published	2019-03-25
ISBN	978-4-904010-32-7
Type	Book Part
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学都市研究プラザ
Description	グローバル都市大阪の分極化の新たな位 相：日本型ジェントリフィケーションの 多様性
DOI	

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

第9章

関東・飯場調査

水野 阿修羅

<解題> この調査レポートは、大阪、特に釜ヶ崎で、独立研究者としてまた日本寄せ場学会で活動されている水野阿修羅さんが、釜ヶ崎のまち再生フォーラムの定期研究会や、水内が主宰する大阪市立大学都市研究プラザの研究会で発表された際に、使われた活字資料や写真を、水野さんの許可を得てここに再掲したものである。会社名は仮名化し、写真もそのように処理し、若干の形式を触り、誤字などを訂正したほかは、原文をほぼそのまま掲載している。(文責 水内俊雄)

1 大阪発の人夫出し業者の関東進出状況調査

1-1 2016年1月8日

AM6:00 横浜寿町到着 センターで手配師に声をかけられる。職安前に数人。喫茶店を探してうろうろする。見つからないのでセンターにもどる。職安はすでに紹介終了。失業認定が始まる。手帳提出者を数える。およそ50人。若い人が多い。寿職安の移転案内が貼ってある。3月30日で終了して石川町駅近くに移転とのこと。居酒屋でモーニングサービスがあるとのことなので入ってみる。パンと野菜サラダとコーヒーで500円、しかし他の客はビールを飲んでカラオケを歌っていた。港湾の仕事の夜勤明けだろうか？

「TM社」の横浜営業所をさがして日の出町に移動。伊勢佐木町を通り越して捜すがなかなか見つからない。その時、「ネットルーム・MB」というネットカフェ風のビルに出くわす。個室で1DAY1600円だが女性専用とある。よく見ると男性は2100円とある。案内をもらおうと東京神奈川で8ヶ所もある。「ネットカフェよりも快適・ビジネスホテルよりも気楽に」と書いてあ

る。近くの掲示板には「住むとこない人、仕事のない人、相談にのります」という貼紙が2枚も貼ってあった。そのすぐ横の大きなビルの8階が「TM社」の事務所だった。「日の出町」から電車に乗って「TM社相模原営業所」を目指す。横浜線の古淵駅でおりる。歩くこと30分、大学の寮みたいな建物があって、それが「TM社」(写真9-1²²)だった。外から見ただけだが個室がおよそ300室。食堂も大学の学生食堂みたいでセルフサービススタイルだった。外の求人募集に「室内コンビニ店員募集中」とあった。仙台で寮内にコンビニがあったのを思い出した。

次は「SM社横浜営業所」、東急田園都市線市が尾駅で降りて歩く。急な坂を登りおるとどこかの会社の独身寮と言う建物が「SM社」(写真9-2)だった。2階建てのアパート風の建物が3棟、100室ぐらいあるかなと言う感じ。

南武線に乗って、「TM社川崎営業所」を目指す。八丁畷駅で下車。2015年5月の火事で焼けたドヤのすぐそば、なんと「TM社ボクシングジム」があり、その奥のマンションが飯場だった(写真9-3)。8階建てで何室あるかは確認できなかった。火事で焼けたドヤは更地になっていた。京浜急行に乗って「TM社蒲田営業所」を目指す。京急の蒲田、JRの蒲田の間のビルの中に「TM社」の事務所はあった。周りはネットカフェだらけ、私がよく泊まっていたカプセルホテルはトランクルームになっていた。

京浜東北線に乗って上野に移動。上野駅東口のすぐそばのビルの5階が「TM社」上野事務所。その裏の通りのビルの1階が「SM社」上野事務所。その向かいにカプセルホテル「北欧」一泊4200円があった。

1-2 2016年1月9日

AM 6:05 山谷労働センター10数人がまわりに。玉姫公園に移動。露店が15軒。玉姫職安に移動。12日に新規オープンとの貼り紙。労働者会館そばの「柳川」で朝食、中飯、蜆汁、納豆で500円。南千住から電車で浦安へ。「IS社」の飯場に、真新しいワンルームマンション風ビル、部屋数は100近い、和泉ナンバーの車が止まっていた。浦安から電車で西船橋に移動。駅そばの

²² 本章での写真は、全て筆者撮影のものである。

「TM 社」西船橋営業所を見る。ビルの8階、1階のポストに「作業員大募集」のチラシ。「完全日払い11000円以上」。

総武線に乗って津田沼へ、「TM 社」津田沼営業所をさがす。TM社の看板の後ろに広がるマンションがまっ黄色(写真9-4)。3階建てが3棟もある。他にも2階建ての建物が3つある。敷地も広い。



写真9-1 TM社相模原営業所



写真9-2 SM社横浜営業所



写真9-3 TM社川崎営業所



写真9-4 TM社津田沼営業所

1-3 2016年1月10日

三ノ輪から地下鉄、東武伊勢崎線に乗って「松原団地」へ、「KT社川口営業所」へ。ここも真新しいビルでワンルームマンション風。100室ぐらいある感じ。新越谷から武蔵野線経由、南浦和と乗り継いで浦和へ、「SM社・浦和」の飯場へ。浦和レッズのサッカー場のすぐ横。横浜と比べると小さい。50室ぐらいだろう。

浦和から京浜東北線、埼京線と乗り継ぎ、北赤羽へ、「TM 社」赤羽営業所へ、看板は「TK 社」になっている。建物も小さく 50 人ぐらいだろうか？

山谷で解放派が全国日雇決起集会を開いているのを思い出した。急いで玉姫公園に向かう。集会はすでに終わり移動するところだった。5, 60 人ぐらいの人がぞろぞろ歩いていた。

山谷労働者会館前の炊き出しにむかう。調理は終わり一服してるところだった。N さんに挨拶すると、私が前に書いた「市民社会で生きづらい人の集まる街―釜ヶ崎」を「まずいんじゃない」と言った。私の文章は「現闘」批判になるという。「飯場調査をやっている」と言うと、「中に入らないのか？」と言われた。「67 歳だから」と言うと「山谷では 70 でも働いているひとがいる」と批判されたのでそうそうに離れ、高田馬場に向かう。

J R 高田馬場駅すぐそばの「SM 社」の事務所はごちゃごちゃした飲み屋の多い路地の中にあった。コンテナに看板が出ている。よく見るとその奥の 2 階建ての建物が事務所だが、日曜だからか閉まっている。山手線の反対側が「TM 社」事務所、こちらビルの 3 階。池袋で「R」にあう。

埼玉高速鉄道で鳩ヶ谷に向かう。すでに真っ暗。住居表示もない。地図を頼りに歩くこと 50 分、工場街の中に大きなワンルームマンション風飯場がうかび上がった。道路を隔てた駐車場には軽自動車 が 30 台以上とまっている。「KT 社・川口営業所」。

1-4 2016 年 1 月 11 日

5 時半に起きて錦糸町に向かう。J R 錦糸町駅北口すぐのビルの 3 階に「TM 社事務所」、南口からちょっとはなれたところに「SN 社墨田営業所」、こちらはビルの 1 階、6 時ちょっとすぎだがもう事務所はオープンしてた。祭日だからか労働者の姿は見えなかった。駅前の「吉野家」で朝定食を食べ、新小岩に向かう。駅降りて歩くこと 40 分、京葉道路沿いのガソリンスタンド裏に真っ白な「TM 社新小岩営業所」、馬鹿でかいガレージ付きの 3 階建て、食堂も大きい。しかしまだ備品も無く引越しも終わっていないようだった。地下鉄葛西駅から西船橋に出て武蔵野線で北松戸に向かう。水戸街道を歩くと 4 階建てのワンルームマンション風飯場が「IS 社松戸営業所」(写真 9-

5)。馬橋駅の方が近かった。ここから綾瀬に向かう。綾瀬駅から歩いて20分、「TK社」にたどりつく(写真9-6)。ここから千葉に行き。人と会う約束。1時、JFSAのNさんのやっているリサイクルショップに行く。彼は若い時頃にいて、釜ヶ崎によく来ていた人。その後千葉県松戸に来て、ヤンキーの子にかかわり。彼らの仕事作りのため古着屋をはじめ、そこに買い物にきたパキスタン人と友達になり、パキスタンのスラムに学校を作り、その運営の為、日本の古着を送っている。山谷の炊き出しにも協力しているすごい人。ヤンキー上がりの建設業で働いている若者に飯場調査を手伝ってもらおうと思った。その人の協力で行きにくかった八潮市の「KT社・八潮」(写真9-7)を見つけることが出来た。



写真9-5 IS社松戸営業所



写真9-6 TK社綾瀬営業所



写真9-7 KT社八潮営業所

1-5 2016年1月12日

山谷の玉姫職安の移転新規オープンを見に行く。6時40分、建物の外にも人がいっぱい。とても狭い。労働者が「前の四分の一だ」と言っている。東京都の仕事が輪番で紹介されている。狭いカウンターを挟んで労働者が手帳を職安職員に渡そうと四苦八苦している。押し合いへし合い大変だ。公園の仕事と道路の仕事とあわせて155人の求人が紹介され、続いて「希望紹介」という名の民間の仕事が紹介された。コンクリ打ちで12,500円、2人。一人はすぐに出来たがもう一人がなかなか決まらない。結局一巡して決まらなかった。すぐに認定が受け付けられた。支払いは11時から12時まで、2階で行うとのこと。今までの職安は上の都営住宅とともに解体、再生されると言う。

台東中央凶害館に行き、スポーツ新聞求人欄を見に行く。スポーツニッポンが建設業求人が一番多いのは大阪と一緒に。見るとTK社、KT社が、関東の業者と並んで載っている。日刊スポーツにはIS社も載っていた。求人情報誌も見ると、「SM社」が載っている。そこホームページに載って無かった新宿営業所がのっている。最後にここを見て帰ることとする。新宿駅西口近くのビルの3階、他の営業所は1階だったのにここだけは3階、やはり家賃が高いのか？

求人欄を見ると、関東の大規模飯場業者は「RS社」「NN社」がいっぱい飯場を持っているようだ。ここを調べるのと、関西の業者との関係を調べるのは次の課題だ。

2 関東の人夫出し業者も含めた調査

以上、1月に関西の人夫出し業者の関東進出状況調査で少し残った箇所があり、また関東の人夫出し業者の調査も行いたいと思った。スポーツ新聞や無料求人情報誌にのった寮付きの建設業者を調べた。

2-1 2016年4月16日

4月16日、夜行バスで新宿に着く。予定より40分も遅れたが、高田馬場

の人夫出し業者事務所に行く。最初は関東最大の飯場を持つと思われる「RS社」、駅から歩いて5分、3階建てのビル、ストリートビューで見ると3階の窓に大きな「日の丸」、寄り場や駐車場はない。続いて「SM社」高田馬場事務所へ、もう誰もいない。大きな飯場は持たないが、現金仕事を大量に手配してる「RG社」の事務所を探す、ビルの一角だとおもったが、大きなビルのワンフロア全部、ドアが開いていたので覗くと、男性社員が多数働いていた。

新宿に戻り、小田急に乗り登戸で南武線に乗り換え、「稲城長沼」で降りる。「TM社」の飯場を探す。高層マンション群の中にプレハブの2階建て、かなり古そうだ。看板は「TK社」になっていた。続いて南武線の「中野島」に向かう。「TK社」の飯場を探す。3階建てのマンション2棟、「山谷から」通信最新号にTK社が「外国人技能実習生」として受け入れたベトナム人を「鳶の実習」と言いながら、雑役として、しかもめっちゃくちや安くこきつかっていると問題になっていると言う。飯場を外から見ただけではベトナム人がいるかどうかはわからなかった。

続いて、小田急の「鶴川」に行く。「NN社・鶴川」の飯場を探す。谷間のような所に、プレハブの2階建てが3棟ある。その奥にコンテナを積み重ねたような宿舎も見えた。

また小田急に乗り「厚木」に向かう。「RS社・県央」の飯場を探す。ビックリ、でかいワンルームマンション風の巨大飯場、200室以上あるとおもわれる、新しそうだ。1階は駐車場、外にも広い駐車場。

小田急相模大野に戻り、小田急江ノ島線に乗り、「南林間」で降り、「NN社・本社」を探す。碁盤の目の様に道路が行きかう分譲地に小さな本社、とても「人夫出し」には見えない。

東急田園都市線に乗り換え、「南町田」でおりる。駅前は巨大ショッピングモール、通り抜けるのも大変、住宅工場混住地区を抜けた先の低地帯に「RS社・町田」の飯場があった。

2-2 2016年4月18日

4月18日、朝一番で玉姫職安に行く。6時40分、職安前の道路も労働者で

いっぱい。紹介が終わったようで労働者が散り始めた。紹介状況を見ると、民間の仕事はゼロ。朝飯を食べて、釜ヶ崎でも、ネットでも悪評の高かった、CS社に向かう。

内房線の「五井」で降りて、新聞に大きく求人広告をだしていた「SN社」の飯場を探す。駅から歩くこと40分、プレハブ2階建ての飯場についた。4棟ほどあるがまだ新しいようだ。

歩いて、「CS社」の飯場を探す。30分後に臨海工業地帯に隣接して、大きな飯場があった。近くに飯場らしき物がいくつもあった。

千葉に戻り、モノレールに乗って、「桜木」駅に出る。電車から「CS社」のでかい看板がみえる。看板のわりに飯場は大きくなかった。近くの「UI社・高品」を探すが見つからず。

武蔵野線の「船橋法典」駅で降りる。山の上に「CS社」の飯場があった。2階建てのプレハブが4棟。いずれも小さいが新しい。

「西船橋」に戻り、「CS社」の飯場を探す。住宅街の中に巨大な飯場、3階建てのワンルームマンション風が4棟。(写真9-8)



写真9-8 CS社西船橋営業所

2-3 2016年4月19日

4月19日、地下鉄に乗り、「葛西臨海公園」駅に向かう。マンション群の中にワンルームマンションの2棟続きが「RS社江戸川」(写真9-9)、60室ぐらい在りそうだ。

歩いて次を探そうと思ったが地図で見ると思ったより遠いようなのでバスに乗る。すぐに「NN社・葛西」を見つけた。



写真9-9 RS社江戸川営業所

地下鉄「葛西」から「西船橋」経由で常磐線「馬橋」に出る。駅から歩いて20分、番地の所に飯場らしきものは無い、大きなマンションが1棟あるだけ、ひょっとしてと思い、一軒の表札を見るとカタカナの「RS社」のシールが貼ってある。駐車場を見ると「RS社」の軽乗用車がおいてある。ナンバーは神奈川や多摩ナンバー、更にマンションと駐車場の間に小さなプレハブの「RS社」の事務所が目立たなくおいてあった。

武蔵野線、東武伊勢崎線で「春日部」に出る。「NN社・春日部」を探すが見つからず、あきらめ、東武野田線に乗り、「大宮公園」を目指す。「UI社・さいたま」が見つかる。「UI社」の飯場は都心近くに無く、ほとんどが駅から遠く今回はあきらめたので、ここ一軒だけ。

大宮、南浦和、東川口を経て「浦和美園」に出た。駅からバスに乗ろうと思ったがバスが出たばかりで次が30分後だというので歩くことにした。これが大間違い。道路は車専用に出ており、車ならまっすぐにいけるのに歩行者自転車は通れず谷を降りて上がって遠回りになった。やっと「NN社・浦和」の飯場に出たが、飯場の広場で5、6人が集まって何か話している。聞いてると「現金」「契約」と言ってる。手配師のあつまりみたいだった。彼らがなかなか引っ込まないので中を覗け無かった。プレハブの二階建てで新しい。

次の日に、朝4時半に「あいりん総合センター」にテレビ局が来て、案内しなければならぬので、今回はここまで。

3 市民社会で生きづらい人の集まる街―釜ヶ崎

2016年10月のはじめにまた東京・山谷に行ってきた。朝の玉姫職安・城北福祉センターに行った(写真9-10,9-11)。手配師がいない。路上求人が無い。職安は東京都の「就労対策事業」(175人)の仕事しかなかった。1日だけ民間の仕事が一人出て



写真9-10 玉姫職業安定所

た。センターは民間ゼロ。東京都の高齢者向けが6人あっただけ。3日間しかいなかったので結論を出すのは早い、山谷が寄せ場としての機能を無くしつつあると思った。スポーツ新聞の求人欄を見ようとおもって喫茶店を探すが、早朝からやっている店が無い。歩き回ってやっと1つ見つけた。大阪だったら朝4時からモーニングサービスをやっているのに。



写真 9-11 玉姫職業安定所

スポーツ新聞の求人欄には「土工・作業員」の求人がいっぱいである。仕事が無いわけじゃなくて、山谷に来てないだけだ。駅手配や求人情報誌はチェックできなかった。次に行く時の課題だな。

昔、東京で山谷よりドヤが多くて寄せ場としても大きかった「富川町」(現江東区森下)に行ってみた。もう無くなっているだろうが、今の姿を見ようと思った。道路に置かれた住宅案内図を見ると「簡易旅館」と書かれたところがある。しかもその前は「職安」となっている。ビックリして行って見ると、ドヤが一軒あった。その前は更地。何にも無い。近くの深川図書館について「江東区史」を見てみる。更地のところに「東京港湾職業安定所深川出張所」があったことがわかった。残念ながらいつ閉鎖になったかは判らなかった。一軒のドヤ以外は軒並みビジネスホテルになってる。料金は5000円以上だ。日雇い労働者は泊まれないな。日雇い労働者はどこに泊まっているのだろう？

山谷にも現役労働者の姿は無い。山谷にいるのは生活保護受給者と外国人バックパッカーだけだ。東京には山谷以外ドヤ街も無い。貧乏人はどこにいるのか？ ネットカフェか安アパートか飯場か？ 今流行の「シェアハウス」か？ まったく私には見えない。蒲田にはネットカフェが十軒以上あるし、カプセルホテルも二軒あった。しかし寄せ場は見当たらなかった。スラム街やドヤ街がないと貧困が見えない。孤立した貧乏人はますます孤立する。「秋葉原」事件、「黒子のパスケ脅迫」事件、「寝屋川中学生殺人」、いずれも派遣で働いて市民社会で孤立していた。今流行の「シェアハウス」は実態を誰もつ

かみきれてない。「民泊」も問題になっているが、態はまだまだつかめてない。

「野宿者」もそうだが、見えなければ「問題」はないことになる。東京は明治以降、「被差別部落」を何度も移転させ、「東京には同和地区は無い」といっている。スラム街も移転消滅させられたことになっている。実は散らされて見えなくされているだけなのに。同じように「在日コリアン集住地区」や「中華街」も東京ではつくらせなかった。ニューカマーのコリアタウン「新大久保」も「在特会」を使って排除しようとしたがまだ成功していない。同じように「日雇い労働者」の集住地区をなくしたかった。そして成功しつつある？

山谷は第一次暴動以後ずっと消滅路線を歩んでいる。労働者の運動体もそれを補完してきた。最初の運動体は共産党系の全日自労だが東京都の「家族山谷脱出計画」に乗っかって出て行った。二百世帯を都営住宅に移す計画に応募したが、集団移転に反対運動に出会い、バラバラに散らされて力を失った。

その後をうけた「新左翼系」の運動体は「手配師追放」を目指した。城北労働センターがオープンした時、釜ヶ崎と同じ「相対方式」で始まったが「相対方式」は手配師を容認するとして「センター窓口紹介方式」にした。すると業者は労働者を選べないので、路上で手配しだした。そして運動体はこれも排除して、「職安、センター紹介」にこだわった。結局、業者は山谷から引き上げ、「人夫出し飯場」に依存し、飯場求人、新聞、駅、求人情報誌、ネットに頼るようになったようだ。釜ヶ崎では「センター」が出来た時、「暴力手配師」は追放したが、「手配師」は追放しなかった。もっとも「釜共闘」がつぶれた後の運動体は行政闘争を主にしたこともあるかもしれない。いずれにしても釜ヶ崎は求人がそれなりに成り立つので手配師も少なくなったとはいえ存在してる。家を失った人は釜ヶ崎にすれば「シェルター」もあるし、「炊き出し」もあるので、生きていける。「山谷の中」には「シェルター」はない。東京じゅうにあちこち散らされる。東京では「炊き出し」さえも「住民？」の反対を口実にして排除されるという。

釜ヶ崎に対する差別は今もきつい。だから野宿してても「釜ヶ崎には行き

たくない」という人も多い。釜ヶ崎には「生き方の下手な人」が多い。だから喧嘩も多いし、ごみをめぐる問題も多い。でも逆に、助け合いもたくさんある。「炊き出し」の多いこと。支援者の多いこと。色んな支援者が世界中から集まってくる。それもこれも貧乏人が集まってるからだ。

かつては「こどもの貧困」も釜ヶ崎に集まっていたので見えやすかった。釜ヶ崎も東京と同じで「こども持ち」は釜ヶ崎から追い出されて見えにくくされた。貧乏人は集まらないと「力」にならない。釜ヶ崎を残したい。